

昭和恐慌期の高島亀太郎(下)

—政治活動について—

川 東 蟬 弘

目 次

はじめに

第1章 昭和5・6年の亀太郎

- (1) 昭和5年の衆議院選挙と亀太郎
- (2) 宇和島市会における亀太郎
- (3) 愛媛県会における亀太郎

第2章 昭和7年の亀太郎

- (1) 昭和7年の衆議院選挙と亀太郎
- (2) 宇和島市会における亀太郎

第3章 昭和8・9年の亀太郎

- (1) 昭和8年3月の宇和島市政変と亀太郎
- (2) 宇和島市会における亀太郎

は じ め に

亀太郎は、明治44年(1911)1月、27歳で宇和島町会議員(愛媛進歩党, 国民党系)に初当選し、以後、再選を繰り返し、また、大正10年(1921)8月宇和島に市制が施行されるや、市会議員にも当選し、副議長に就任し、初代山村豊次郎市長を支えていました。また、大正8年(1919)9月からは、愛媛県会議員に当選し(北宇和郡選出, 国民党)、以後、12年の県議選でも再選され(宇和島市選挙区, 政友会派)、さらに、昭和2年(1927)9月の普通選挙法にもとづく最初の県議選でも再選され(宇和島市選挙区, 政友会)、町議・市議と県議を兼務し、多忙な政治活動を行っていました。そして、昭和4年の12月には、

政友会の支持を得て県会の副議長に就任するなど、県会でも一定の役割を果たしていました¹⁾

これまで、明治期から大正、昭和初期の亀太郎の政治活動について見てきましたので、本稿では、昭和恐慌期（昭和5年から9年）の亀太郎の政治活動について見ることにします。

政界は、浜口・若槻民政党内閣から犬養政友会内閣へ、そして、「五・一五」事件による犬養首相暗殺後、「政党内閣制」は崩壊し、政権は政党に回ってこず、海軍の斎藤実、岡田啓介が内閣を担当し、軍部の勢力が拡大するなど、歴史の転換期にあたります。

また、対外的にも、昭和6年9月「満州事変」、7年1月「上海事変」、同年3月「満州国」建国、8年3月国際連盟脱退など、中国への侵略が拡大し、国際的に孤立化に向かう時代です。

第1章 昭和5・6年の亀太郎

(1) 昭和5年の衆議院選挙と亀太郎

昭和4年（1929）7月、田中義一政友会内閣は、満州某重大事件で天皇の不信を買って、総辞職し、今度は浜口雄幸民政党内閣が誕生しました。浜口内閣は外相に幣原喜重郎、蔵相に井上準之助を起用して、前田中政友会内閣のとった政策を根本的に転換し、対外的に対中国外交の刷新、協調外交を展開、また対内的には、軍縮、財政緊縮、金解禁、産業合理化、社会政策等を推進していきました。

しかし、帝国議会における与党の民政党は過半数を割っており、政友会など野党が多数派でした。愛媛でも、衆議院議員9名中、政友会が7名、民政党が2名で、野党政友会が多数を占めていました。

そこで、浜口内閣は、与野党逆転を狙い、昭和5年1月21日、衆議院を解散

1) 拙稿「大正期の高島亀太郎について(下)」(「松山大学論集」第10巻第3号, 1998年8月), 「昭和初期の高島亀太郎(下)」(「松山大学論集」第10巻第5号, 1998年12月)。

しました。その結果、第17回衆議院議員選挙が行われることになりました(普通選挙法施行後2回目の総選挙)。

愛媛県の選挙区は3区に分かれ、それぞれ定員が3名でした。1区(松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡)では、民政党が3名(新人の武智勇記、新人の松田喜三郎、新人の西村兵太郎)、政友会が2名立てました(現職の高山長幸、現職の須之内品吉)。2区(今治市、越智郡、周桑郡、新居郡、宇摩郡)では、民政党が2名(元職の村上紋四郎、元職の森達三)、政友会が2名立て(現職の河上哲太、現職の竹内鳳吉)、無所属から1名出ました(新人の近藤敏夫)。亀太郎の属する3区(宇和島市、西・東、北・南宇和郡)では、民政党が2名(現職の村松恒一郎、新人の本多真喜雄)、政友会が2名立てました(新人の清家吉次郎、新人の白城定一)。与党の民政党(支部長は武内作平)は現有2議席ですが、与野党逆転を図らんと、7名を立て、攻めの選挙を行いました。他方、野党の政友会(幹事長は大本貞太郎)は、7議席をもっていますが、6名に絞り、堅実厳選の守りの選挙です。

亀太郎は、政友会の県会議員として、3区の政友会候補、特に宇和島市、北宇和郡・南宇和郡を地区割りとする清家吉次郎(吉田町長、県会議員、前回の総選挙でも立候補、落選。前職の二神駿吉が勇退し、その地盤を継承)のために応援弁士として奮闘しましたが²⁾、残念ながら、5年の亀太郎日記は無く、選挙応援活動の詳細は不明です。

昭和5年2月20日が総選挙の投票日で、翌21日に市部(松山、宇和島、今治の3市)で、22日に郡部で開票が行われました。選挙結果は、予想通り、民政党6名、政友会3名で、政権党側の民政党の圧勝、野党の政友会の大敗北となりました。1区では、民政党の新人武智勇記、松田喜三郎と政友会の現職高山長幸が当選し、政友会の現職須之内品吉と民政党の新人西村兵太郎が落選し、

2) 昭和5年2月9日の『伊予新報』に「清家吉次郎氏の第1回演説会は7日午後6時より北宇和郡吉田町丸井座において開催された。当日宇和島市よりは県会議員高島亀太郎、赤松勲外数氏が自動車にて応援に乗り込むで氣勢を添へ」等の記事があります。

また、2区では、民政党の元職の村上紋四郎、森達三と政友会の現職河上哲太が当選し、政友会の現職竹内鳳吉と無所属の新人近藤敏夫が落選しました。3区では、民政党の新人本多真喜雄、現職の村松恒一郎、政友会の新人清家吉次郎が当選し、政友会の新人白城定一が落選しました。3区の票数は、本多2万1,867票、村松1万3,541票、清家1万5,043票、白城1万1,100票でした³⁾

このように、愛媛では、民政党の新人が当選し、政友会の現職が落選するなどして、民政党が大勝し、与野党が逆転しました。また、全国的にも、民政党273、政友会174、国民同志会6、無産政党5等々となり、やはり、政権党の民政党側の圧勝でした。この選挙により、浜口民政党内閣の基盤が強まりました。

(2) 宇和島市会における亀太郎

次に宇和島市会、市政の方を見てみましょう。大正から昭和初期にかけての宇和島市長は、政友会の南予の中心人物である山村豊次郎が務めていました(大正11年5月2日～15年1月27日、昭和2年3月2日～5年10月21日)。山村市長は宇和島市懸案の基幹事業である、上水道の建設を行い(大正12年に計画し、15年11月15日完成)、須賀川の付替事業を行い(昭和4年2月16日市会で議決、7年10月15日完成)、そして、昭和5年3月4日には宇和島内港浚渫意見書を市議会で議決し、宇和島港湾改修事業に取りかかろうとしていました。

宇和島市議会の勢力関係は、昭和初期には、政友会と民政党が全く伯仲状態でした。そして、政争が大変激しくなされていました。

恐慌の真っ只中、昭和5年(1930)10月10日、3度目の宇和島市会の改選が行われました。4年ぶりの市会議員選挙です。時の内閣は浜口雄幸民政党内閣であり、愛媛県知事も民政党系の笹井幸一郎であり(昭和5年8月26日～6年12月18日)、民政党側にとっては、市政奪還の絶好の機会でした。民政党は、反山村を掲げて激しい選挙戦を戦いました。そして、警察が民政党に有利に、

3) 『愛媛県議会史 第4巻』67～76頁。

政友会に不利な選挙干渉を行い⁴⁾、結果は民政党 16、政友会 13、中立 1 で、民政党の勝利、政友会側の敗北となりました。「政友王国」と言われていた宇和島でも、政友会は野党に転落しました。

この市会議員選挙で当選した議員（定員 30 名）の順位は次の通りでした。

佐々木饒（民，前），岡島盛夫（民，新），長山芳介（政，新），津村寿夫（民，新），森本兎之助（民，新），尾下鶴正（民，新），菊池伝次郎（民，新），松本善保（民，新），吉原多七（民，新），村山半蔵（政，前），参河恂五郎（民，前），高島亀太郎（政，前），兵頭輝行（政，新），井上源一（政，前），丸木栄太郎（民，新），牧野虎恵（政，前），藤本藤平（民，新），久留島豊（政，前），中平常太郎（政，元），古城貞（民，新），富田正一（民，新），政石又一（民，前），久野修造（政，前），山崎章一（民，前），松浦元太郎（政，前），溝口正文（民，前），川野治亨（政，新），松田亀一（政，前），小池紋治郎（中，新），久都直太郎（政，前）。

当選議員中、上位者は民政党が占めており（10 名中、8 名まで民政党）、政友会の大苦戦ぶりがわかります。亀太郎も、12 位で苦戦でした⁵⁾ 政友会の有力市議も落選しています（山崎運太郎、松本勇、中里重次郎、薬師神岩太郎ら⁶⁾）。

ただ、この 5 年の亀太郎日記はなく、残念ながら市会議員選挙の詳細は不明です。

この 5 年 10 月の市会議員選挙における政友会の敗北により、政友会に支えられていた山村豊次郎市長は、10 月 13 日に、市長不信任と受け止め、市長辞任の声明を出し、辞任してしまいました⁷⁾

山村辞任の後、新市長を選出しなければなりません。10 月 21 日に、新議員に

4) 昭和 5 年 10 月 14 日の『伊予新報』に、投票の前日 9 日に警察が政友会候補の事務所の前に網を張り、運動の自由を束縛したとあります。

5) 井上雄馬『山村豊治郎伝』213～214 頁。

6) 『伊予新報』昭和 5 年 10 月 15 日。

7) 井上雄馬『山村豊治郎伝』215 頁。

よる初市会が開かれ、そこで、市長詮衡委員会も開かず、即決で、民政党の支持を得て、新市長に高橋作一郎⁸⁾が選出されました(賛成17票、白票13票)。また、同日市会議長には民政党の山崎章一(織物業)、副議長も民政党の古城貞(医師)が当選し、これにより、宇和島市政は民政党に完全に牛耳られることになりました。

これに対し、政友会派は、11月24日に融通座において、2,000名を集め、高橋市長反対の集会を行っています⁹⁾。

昭和6年は恐慌の嵐が吹き荒れ、宇和島の製糸、養蚕業が深刻な不況で、多事多難な年ですが、民政系の高橋市長が引き続き市政を担当しています。この年、前山村市長が手掛けた須賀川付け替え事業は、3年目を迎え前進し、また、宇和島港湾改修事業は、7月の大連市で開催された全国港湾協会総会で宇和島港指定要望が可決されています。しかし、国による指定はまだで、軌道に乗っていません。

(3) 愛媛県会における亀太郎

次に愛媛県会の方を見てみますと、昭和5年の県会は野党の政友会が多数を占めていました。5年5月に、さきの2月の衆議院選挙で当選した3県議(武智、松田、清家)の辞職に伴う補欠選挙が行われ、そこで民政党が勝っていますが(赤松桂・北宇和郡、武智太市郎・温泉郡、いずれも民政党、菅井昇平・松山市、中立・民政党系が当選)、県会の勢力分野は、政友会25、民政13、中立1であり、依然として、県会では政友会の絶対多数が続いていました。

亀太郎は、昭和4年12月に県会副議長に就任し、恐慌真っ只中の5年11月開催の第110回愛媛県会(11月10日開会、6年度予算等の審議、12月12日閉会)でも副議長を続けています。この県会では民政系の笹井幸一郎知事が、6

8) 高橋作一郎は明治20年北宇和郡三島村に生まれ、41年愛媛県巡查となり、昭和2年まで警察官として勤務し、宇和島、松山警察署長を歴任し、昭和2年7月から宇和支庁長に就任。昭和5年11月8日宇和島市長に就任、8年3月17日退任(『宇和島市誌』265頁)。

9) 井上雄馬『山村豊治郎伝』214頁。

年度予算案（5年度と変わらぬ緊縮予算）について提案しています。それに対し、県会多数派の政友会は、さらに予算を削減する修正案を出し、可決させています。亀太郎は副議長を務めつつ、勸業関係費の審議では、製糸業界出身の議員として、質問に立ち、現民政党内閣の金解禁政策を批判し、又世界的不景気の襲来によって、農村、特に蚕糸業が深刻な不況にあると訴え、蚕糸業対策を求めています¹⁰⁾

昭和6年9月25日、定期改選の第21回愛媛県会議員選挙が、深刻な恐慌下に行われました。政権党側の民政党（村上紋四郎支部長）にとっては、県会の勢力分野の逆転を図る絶好の選挙でした。他方、野党の政友会（岩崎一高支部長）にとっては守りの選挙です。しかし、今回の県議選は恐慌・不況の影響で、民政、政友両党とも、候補者難で、意気の上がらぬ選挙であったようです。愛媛県会の定数は38名（従来は37名、国勢調査の人口移動に伴い、6年8月に改正）で、民政党から28名（民政党系無所属1を含む）、野党の政友会から22名、無産党から2名、計52名が立候補しています。

宇和島市選挙区の県議の定員は2名。宇和島市では、民政党は赤松桂（現職、補欠当選、前高光村村長）と佐々木饒（新人、市議員、宇和島製氷株式会社専務取締役）の2名を公認しました。それに対し、政友会も対抗して、9月16日に蔦屋旅館で会合し、2名を立てることを決め、1人は久都直太郎（新人、市議員、和洋酒販売業、政友会宇和島部会幹事長）とし、もう1人は幹事長に一任することにし、現職の亀太郎が再度出ることになりました¹¹⁾ 激戦が予想されましたが、届け後、民政党の村松恒一郎代議士の調整が入り、現職の赤松と亀太郎との2人を説伏して、21日、両者が立候補を辞退し、無風選挙となっています¹²⁾ 亀太郎はこの時の県議選には出るつもりはなかったようですが、昭和6年の亀太郎日記はありませんので、残念ながら、この時の具体的事情は不

10) 『愛媛県議会史 第4巻』572頁。

11) 『伊予新報』昭和6年9月18, 19日。

12) 『愛媛県議会史 第4巻』76～87頁、『伊予新報』昭和6年9月22日。

明です。ともあれ、大正8年(1919)以来、3期12年間の亀太郎の県議生活が終わりました。

9月25日の第21回県会議員選挙の結果は、予想通り民政党24、政友会14で、久しぶりに、民政党が県会で多数を奪還し、政友会が少数野党に転落しました。また、政友会の大物議員も落選しています(例えば、大本貞太郎、赤松勲等)。

第2章 昭和7年の亀太郎

(1) 昭和7年の衆議院選挙と亀太郎

昭和6年(1931)12月11日、若槻礼次郎民政党内閣は、満州事変をめぐる軍部との対立や安達謙蔵内相らの唱える民政・政友協力内閣論による閣内不統一のため総辞職しました。時の元老西園寺公望は、軍部・右翼の反対を危惧して、多数党の民政党に再組閣させず、少数野党の政友会の犬養毅に組閣を要請し、12月13日、犬養毅政友会内閣が成立しました。犬養内閣は、蔵相に高橋是清を配し、前内閣の経済政策を転換し、金解禁政策を中止し、金輸出再禁止を決定しました。また犬養内閣は、帝国議会における政友会の劣勢の逆転をはかるために、昭和7年1月21日に衆議院を解散しました。その結果、2月20日、第18回衆議院選挙が行われることになりました。

愛媛県の政友会は現有3議席で、9名を立て、攻めの選挙を行いました。他方、民政党は、6議席をもっていますが、5名に絞り、守りの選挙でした。1区(松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡)では、政友会が3名(元職の須之内品吉、元職の岩崎一高、新人の大本貞太郎)、民政党が1名を立てました(現職の武智勇記)。2区(今治市、越智郡、周桑郡、新居郡、宇摩郡)では、政友会が3名(現職の河上哲太、新人の森昇三郎、新人の近藤敏夫)、民政党が2名立てました(現職の村上紋四郎、新人の安藤音三郎)。亀太郎の属する3区(宇和島市、西・東、北・南宇和郡)では、政友会が3名(現職の清家吉次郎、新人の白城定一、元職で前宇和島市長の山村豊次郎)、民政党が2名立てました

(現職の村松恒一郎、現職の本多真喜雄)。但し、村松は立候補の後、「骨肉の兄弟が相争うことは情において忍びない」¹³⁾として辞退しています。山村と村松は兄弟です。

さて、この7年2月の第18回衆議院選挙について、「亀太郎日記」に大変興味深い記事が見られます。以下、詳しく見てみましょう。

2月1日に南予の政友会幹部が会合し、3区の政友会の候補者の選定に当たり、現職の清家吉次郎と新人の白城定一(前回も立候補、雪辱を期す)の2人を決めましたが、後もう一人立候補すべきだとの積極論が出て、その候補者に亀太郎が上がりました。しかし、亀太郎は辞退しています。日記に「午後一時ヨリ地方政友会幹部十数名会合、鳶屋ニ於テ衆議院議員候補者選定ニ就キ協議シタルガ、清家吉次郎、白木定一両氏ハ決定ナレドモ、第三区(定員三名)ニテ政友三名立候補スベシトノ説多数ヲ占メ、其一人トシテ予ヲ推薦サレ、出馬ノ決心ヲ促サレタレドモ、固ヨリ辞退シテ、其意志ナキ旨ヲ言明ス」(2月1日)とあります。

しかし、その後も、亀太郎への出馬要請が続きます。2月3日に、久松操、佐々木長治や、また愛媛県知事の久米成夫(昭和6年12月18日愛媛県知事に就任～7年6月28日、政友会系)も亀太郎に立候補を要請しています。しかし、固辞しています。「午後久松操氏来訪。先日ニ引続キ予ニ衆議院議員候補者立候補ヲ勧誘セラレ、更ニ夕方佐々木長治氏モ来リテ東西宇和郡ノ形勢ヲ説キ、第三区参名推薦ノ必要上、是非予ニ決心セヨトノ切実ナル勧告ヲ受ク。夜、牧野厩恵君モ同様勧誘ニ来リ。尚知事久米氏ヨリモ宇和島署長ヲ通ジテ電話アリ。此件ニ就キ会談シタク上松ヲ乞フトノコトナリ。十時過岡本景光氏ト錦ニテ会談シ、同氏ノ意見ヲ聴ク。予ハ立候補ヲ承諾セザル決心ナリ」(2月3日)。

2月4日にもなお各方面から要請が続きます。「午前佐々木長治氏、東西宇和郡ノ有志渡辺前県会議員、名本県議、稲垣、三瀬等ノ諸氏十名許ヲ率ヒ、久松、

13) 『愛媛県議会史 第4巻』90頁。

牧野氏ト共ニ来訪。立候補ヲ懇請セラレタルガ、有志一行ハ帰り、久松、佐々木両氏ヲ残シテ、予ガ心事ヲ告ゲ遺憾ナガラ辞退ノ旨ヲ言明ス。午後井上源一君ヲ訪ヒ、又警察署ニ大窪署長ヲ訪ヒテ、予ガ辞意ヲ告ゲ、知事ヘモ上松セザル旨回答ヲ依頼ス」(2月4日)。

2月5日には、松山から政友会の幹部・門田晋、清家俊三らがわざわざやって来て、出馬勧誘を行っています。「午前吉田ニ清家吉次郎君ヲ訪ヒテ、予ノ立候補セザル旨ヲ告ゲ、帰後業用ヲナス。午後四時渡辺松三郎氏ノ葬儀ニ行キ、五時予ノ為メニ態々立候補勧誘ニ松山ヨリ来宇セル政友会支部幹部門田晋、清家俊三両氏ト蔦屋ニ会見、尚赤松勲君トミカドニ会見シテ、予ガ辞意依然タル旨ヲ告グ。後、本日来宇ノ田口内務部長招待ノ政友有志ノ宴ニモ丸水ヘ行キタリ」。

2月6日「午前西山君ト予ノ立候補辞退心事ヲ語り、益業務ニ専念スベキヲ期ス。大岡君来訪。本日ハ予ガ五十回ノ誕生日ナリ」。

2月7日、3区の政友会候補者として、亀太郎に代わり、山村豊次郎前宇和島市長が候補者に上がり、その協議に亀太郎は上松しています。そして、山村が立候補の決意をしています。「昨夜遅ク政友会愛媛支部ヨリ電話アリ。先般来立候補者勧誘ノ為メ、上京中ナリシ山村豊次郎氏モ松山迄帰り、熟議中ノ由ニテ、予ニ上松ヲ促スコト頻リナルヲ以テ、午前四時半出発。四国自動車ヲ借切りテ松山ヘ赴ク。大洲ヨリ路ヲ海岸線ニ採リ、中途伊予郡下灘村豊田ニ養蚕教師大滝早君ヲ訪ヒテ後、九時過松山ニ着シ、梅廼家内ノ政友会支部ニ到ル。此時迄ニ山村氏ハ昨夜深更幹部ノ切ナル勧誘ト四囲ノ情勢ニ鑑ミ、遂ニ自ラ立候補スルコトニ決心シ居タレバ、同氏及幹部諸氏トモ打合ノ上、本日帰宇スルコト、ナリ、正午城戸屋ニ入ル。午後三時山村氏ト共ニ松山ヲ立ち、ハイヤニテ帰宇、八時着シ、直チニ蔦屋旅館ニ会合中ナル地方政友会同志ノ席ニ出頭、予ノ推薦辞退ニ到ル経過ト共ニ、山村氏已ムヲ得ズ立候補決心ノ事情ヲ報告シ、一同承認ノ上、直チニ発表選挙運動ニ着手スルコト、ナレリ」(2月7日)。

なお、この日に山崎章一市会議長(亀太郎の小学校時代の同級生であり、ま

た、亀太郎の妻セイの姉タダヲの夫、民政党) が収賄で警察に逮捕される事件がありました。官憲側による反対政党の民政党側への選挙干渉の一環でした。亀太郎も心配して、奔走しています。「市会議長山崎章一君、市土木事業ニ関連セル収賄嫌疑ニテ昨夕宇和島警察署へ引致セラレタル儘帰宅ヲ許サレズ、家族一同憂慮シ居ルヲ以テ、九時半同家へ行キテ、前後ノ事情ヲ問ヒ、又土木委員タル本町朽木方ヲ訪ヒテ、同家ノ親戚トシテ此件ニ奔走セル桂作蔵君ニ会ヒ、明朝警察署長ヲ訪フコト、シテ十一時帰宅ス」(2月7日)。

2月8日に、亀太郎は、山崎章一の件や3区の候補者の地区割の協議に参画し、多忙な日々を送っています。そして、鳶屋旅館での地区割の協議中、清家候補が山村候補を殴る事件が起こり、山村が立候補取りやめを洩らすという騒動が起き、亀太郎が奔走しています。日記に「朝、久松操氏ト同道ニテ宇和島警察署ニ大窪署長ヲ訪ヒ、山崎君ノ件ニテ懇願。尚予ハ特ニ許サレテ同君ニ面会ス。後、鳶屋旅館ニ於ケル候補者地区割ノ協議ニ列リタルガ、白城、清家、山村三候補ノ関係者夫々地盤配当ノ意見ヲ異ニシテ、終ニ一致点ヲ見ルニ至ラズ。夜ニ入り山村氏、桂君ト共ニ大窪署長ノ私宅ニテ会見。又予ハ署ニテ再ビ山崎君ニ会ヒ、公職辞任ノコトヲ勸メタレドモ、承諾セズ。結局選挙干渉トノ誤解ヲ避クル為メ、今夜遅ク山崎及朽木ヲ釈放スルコト、内決シ、予ハ山崎宅へ寄リテ義姉ニ此由ヲ報知ス。然ルニ山村氏ハ先刻鳶屋ノ一室ニテ清家候補ニ酔余殴打サレタルコトアリ。今後ノ不円滑ヲ憂慮シ出馬中止ノ決心ヲナシタリトテ、辞意ヲ洩シ、一頓挫ヲ来シタレバ、山村邸ト鳶屋トノ間ヲ往復シ、十二時過帰宅ス」とあります。

このように、白城、清家、山村の3候補の地盤割りを巡って、トラブルがあり、また、清家吉次郎が山村豊次郎を酔いの余り殴り、かなり感情的にも纏れていたことがわかります。清家は前回当選した現職の衆議院議員です。山村が立候補することに快く思っていなかったのでしょうか。また、3区に、山村の実兄の村松恒一郎が民政党から立候補していることを取り上げ、山村に対し、実兄と選挙が戦えるのかなどとなじったようです。この日記は当事者でなけれ

ば知り得ない、政界の裏話に属する大変興味深い記事となっています¹⁴⁾

2月9日、山村は再び立候補することとなり、3候補者の地区割協議がなされています。「午後市役所及び鳶屋へ行く。二時製糸組合ノ会合ニモ丸穂ノ事務所ニ出席シタルガ、山村氏ハ同志ノ熱烈ナル勧誘ニヨリ、再び立候補ノコトニ確定シ、地区割協議ニ就キ、夜十一時迄鳶屋ニ居リタリ」。

3候補の地区割は、白城候補が西宇和郡と東宇和郡（海岸の4か村を除く）、清家候補が北宇和郡（鬼北の4か村を除く）と東宇和郡の海岸部、山村候補が宇和島市と北宇和郡の鬼北4か村と南宇和郡となっているようです¹⁵⁾

さて、2月10日から本格的な選挙活動が始まりました。山村候補の選挙事務長は市会議員の井上源一、遊説隊に、久松操、高島亀太郎、池下常五郎、赤松勲、久都直太郎、薬師神岩太郎らが当たりました¹⁶⁾

亀太郎は、選挙戦の初めは、清家吉次郎候補を、後は、山村豊次郎候補を応援しています。日記に当時の選挙活動について興味深い記事が書かれていますので、少し詳しく紹介しておきましょう。

2月10日「午前業用ヲナシ、又鳶屋へ行く。午後一時ヨリ吉田へ赴キ、清家候補ノ事務所へ立寄りテ後、本日ヨリ始メラル、同氏ノ演説会ヲ応援ス。四時喜佐方村ノ小学校、七時奥南村奥浦ノ小学校、八時過吉田町ノ劇場ニテ演説ヲナシタルガ、孰レモ盛会、特ニ吉田ニ於ケル予ノ「産業五カ年計画ノ真意義」ハ最聴衆ヲ傾聴セシメタリ。十一時桂作蔵君ト共ニ自動車ニテ帰宇、丸ノ内元村山氏邸ニ設ケラレタル山村ノ選挙事務所及び本町二丁目奈良屋跡ノ清家宇和島事務所へ立寄りテ、十二時帰宅ス」。

2月11日「朝、業用ヲナシ、又山村事務所へ行く。午後一時ヨリ吉田へ行キテ、四時立間村黒住教会、六時高光村小学校ニ於ケル清家候補ノ演説ヲ応援シテ、宇和島ニ帰ル」。

14) 井上雄馬『山村豊次郎伝』389～393頁。

15) 『海南新聞』昭和7年2月15日、『愛媛県議会史 第4巻』100頁。

16) 井上雄馬『山村豊次郎伝』393頁。

2月12日「業用ヲナシ、午後五時ノ汽車ニテ三間へ行キ、薄暮成妙ノ小学校、夜、宮野下小学校ニ於ケル清家候補ノ演説会ヲ応援シテ九時過帰宇シタリ」。

2月13日「午前十時山村候補、久留島豊、芝直由、藤原宇多一、宇郡宮鶴吉ノ諸氏ト共ニ自動車二台ニ分乗シテ出発。川筋ヲ溯リ、東宇和郡高川村高ノ子ニ至リテ、東光寺ニ政談演説会ヲ開ク。聴衆多数。次デ同郡坂石ノ小学校ニ於テ開会ノ後、薄暮野村町ニ出デ同地ニ於ケル政友会同志ノ人々ト会見ノ上、八時劇場ニ於テ演説ス。予ノ演題ハ「産業五ヵ年計画ノ真意義」ニシテ、聴衆満堂、多大ノ感動ヲ与ヘタルガ如シ。閉会后山村氏ハ宇和島へ帰り、予ト藤原君等ハ蔦屋旅館ニ一泊ス」。

2月14日「東宇和郡選出ノ県会議員名本氏及久留島、藤原ノ二氏ト共ニ正午蔦屋ヲ出発、同郡惣川村ノ演説会ニ赴ク。野村ヨリ東へ走ルコト数里、県道ノ尽クル所ニテ自動車を捨テ、溪谷ヲ下リ、徒歩対岸ノ道路ニ出デタルガ、予ハ豫テノ打合ニヨリ、此処ニ来レル駕ニ乗リテ惣川ニ向フ。駕舁ハ四人ニテ交替、肩ヲ代ヘテ悪路面ヲ行クコト一里半。第一会場タル惣川小学校ニ達シ、予ト名本君トニテ演説ヲナス。之ヨリ嚮藤原君ハ中途溪谷徒歩ノ所ニテ落伍、野村へ引返シ、久留島君ハ遊子川へ廻リ、予ト名本氏トハ更ニ駕ニテ行クコト二里、惣川第二演説会場タル山間部落ノ小芝居場ニテ、山村氏推薦ノ演説ヲナス。夜七時閉会、再ビ駕ニ打乗り、名本氏モ別ニ用意ノ駕ニ乗り込ミ、同地有志ニ見送ラレテ惣川ヲ辞ス。元来リシ道ヲ引返シ、暗中溪ヲ渡リテ、豫メ待タセ置タル自動車ニ投ジ、漸ク野村ノ宿ニ帰り、着キタルハ夜半十二時ヲ過グル頃ナリキ」。

2月15日「民政党ノ村松氏ハ候補ヲ辞退シタル為メ、第三区ハ政友会山村、白城、清家ノ三名、民政本多一名ニテ覇ヲ争フコト、ナレリ。本日ハ宇和島ヨリ山村氏モ来リ、共ニ十一時野村ヲ出発、同郡魚成村ニ到リ、同地有志ノ宅ニテ昼餐ノ上、午後二時魚成小学校ニ於テ演説ヲナス。更ニ土居村ノ演説会場ヲ経テ、六時北宇和郡日吉村ニ達シ、予ハ同村父野川小学校迄赴キ、山村氏ノ代理トシテ政談演説ヲナス。後、鍵山公会堂ニ於ケル演説会ニ臨ミタルガ、此処

ニテハ山村氏ノ外、本日ヨリ応援ニ参加シタル池下常五郎君モ、予ノ前席ニ演説シ、聴衆ノ気分緊張盛会ヲ極メタリ。十一時日吉出発、自動車ニテ十二時宇和島ニ帰着ス」。

2月16日「朝、生糸拾個ノ出荷ヲナシ、十時ヨリ山村氏等ト共ニ自動車ニテ出発、川筋地方ノ遊説ニ赴ク。十一時半三島村小松信用組合、午後一時同村下大野、五時愛治村清水信用組合楼上、夜九時泉村小倉劇場ニ於テ夫々演説ヲナシ、十一時帰着ス」。

2月17日「午前十一時、予主任トナリ、藤原、谷岡、高須賀等ノ弁士ヲ率ヒテ出発、岩松選挙事務所ヲ経テ、午後一時下灘村浦知ニ赴キ、同地小学校ニテ演説ヲナス。四時了リ、更ニ徒歩ニテ同村岬鳴ヘ到リ、六時岬鳴小学校ニ於テ演説ノ上、嵐ヨリ自動車ニテ岩松ヘ引返シ、同町劇場ニ於ケル演説会ニ出席ス。山村氏モ来リ、共ニ演説ノ後、十時閉会、十一時宇和島ニ帰レリ」。

2月18日「朝、業用ヲナシ、十時宇都宮鶴吉君ヲ伴ヒテ、自動車出発、東宇和郡遊子川ヘ赴ク。路ヲ川筋ニ採リ、高川、古市、誉子林ヲ経テ、溪間ノ隘路ヲ進ミテ、十二時過遊子川村野井川小学校ニ到達ス。程ナク名本氏モ来リ、昼食後、午後三時ヨリ演説会ヲ開ク。予ハ五時ヨリ六時十分迄演説ノ上、自動車ニテ帰途ニ就ク。九時家ニ帰リタリ」。

2月19日「午前業用等ヲナシ、午後一時ヨリ融通座ニ於テ開会ノ山村氏政見発表政談演説会ニ出席ス。久留島、池下ノ諸氏ニ次デ、予、産業政策経済論ニ関スル政談演説ヲナシ、聴衆ノ共鳴ヲ得タリ。久松氏、山村氏及東京ヨリ来援ノ桑山鉄男氏ノ演説アリテ、六時閉会ヲ告グ。来聴者場ニ溢レ頗ル盛会ナリキ。後、予ハ山村氏、池下君ト共ニモーターボートニテ九島ニ渡リ、夜八時同地百ノ浦ノ小学校ニ於テ演説ス。是亦盛会ヲ極メ、九時帰宇、丸ノ内ノ山村事務所、和霊町ノ同第二区事務所ヘ寄リテ、十時過家ニ帰レリ」。

2月20日が衆議院選挙の投票日です。「衆議院議員選挙ノ当日ナリ。午前業用ヲナシ、十一時第二投票所タル商業学校ヘ行キテ投票ヲナス。午後山村事務所ヘ行キ、又本日帰省中ナル中村純一（大阪逓信局企画課長）ヲ訪フ。惣八君

モ東京ヨリ帰りタレバ、華宵ノ近状ヲ聴クニ大体無事ナルガ如シ。夕方、久松氏ヲ訪ヒ、又大岡ニテ少時碁ヲ囲ミタリ」。

2月21日に市部の開票が行われています。「本日宇和島市部選挙開票ノ結果、山村氏四五〇〇票、清家氏九〇〇票、本田氏一五〇〇票ナリシヲ知ル。七時半ノ自動車ニテ岩松ヲ発シ、八時半家ニ帰リタリ」。

2月22日に郡部の開票が行われています。「選挙事務所へ行ク。郡部開票ノ結果ハ朝来政友派優勢ヲ持続シ来リシガ、四時過ニハ大勢既ニ判明。夜ニ入りテ当選者確定ス。即白城氏一七二〇一票、清家氏一六九六五票、山村氏一四一七九票ヲ以テ当選シ、民政派ノ本多氏一二四九五票ニテ落選トナリ、第三区ハ政友会ノ全勝ヲ見タリ。其他第一区、第二区共政友会二名当選シ、県下定員九名ノ内政友七名、民政二名ノ結果トナリ、従来ノ分野全ク顛倒ス」。

以上のように、亀太郎らの奮闘により、3区では、白城(新)、清家(再)、山村(元)の政友会3候補とも当選し、議席を独占しました。また、1区では、政友会の大本貞太郎(新)、須之内品吉(元)と民政党の武知勇記(再)が当選し、政友会の岩崎一高(元)が落選し、2区では、政友会の森昇三郎(新)、河上哲太(再)と民政党の村上紋四郎(再)が当選し、民政党の安藤音三郎(新)、政友会の近藤敏夫(新)が落選しています。その結果、愛媛県では、定員9名中、7名までが政友会の当選で、民政党は2名に終わり、政友会の圧勝でした。また、全国の選挙結果も、政友会301、民政党146、無産各派5で、政友会の大勝でした。

昭和7年は、対外的にも国内的にも波瀾・激動の年でした。中国侵略は拡大し、1月3日に関東軍は錦州を占領し、1月28日には上海でも戦争を始めています(上海事変)。また、3月1日には「満州国」を作り上げています。国内でも、2月9日に、選挙の最中、前蔵相の井上準之助が血盟団により暗殺され、また3月5日にも三井合名理事長の団琢磨が暗殺され、さらに、5月15日には海軍の青年将校らが反乱を起こし、犬養毅首相までが暗殺されるなど、血生臭い事件が続きました。日記に犬養暗殺について、さらりとですが、記述が見ら

れます。「午前十時半教会ノ礼拝ニ出席シ、新任ノ牧師湯浅雅人氏ノ説教ヲ聴ク。晴。夜、ラヂオニテ犬養首相襲撃サレ重体トノニュースヲ聴ク」(5月15日)、「犬養首相ハ夜半十二時薨去トノ入報アリ。業用等ヲナス」(5月15日)。

犬養暗殺の後を受け、元老西園寺は、批判の強い政党に内閣を渡すことなく(通常なら、議会で多数を占める政友会の後継総裁鈴木喜三郎に政権が回る)、海軍の長老、斎藤実を推薦し、昭和7年5月26日、斎藤実内閣が成立しています。斎藤内閣には政友会から3名、民政党から2名入閣、他は官僚で、「挙国一致」内閣でした。大蔵大臣は引き続き高橋是清が就任しています。

以後、政党内閣は崩壊し、非政党・超然内閣・軍人内閣が続くことになっていきます。

(2) 宇和島市会における亀太郎

昭和7年(1932)2月の衆議院選挙で犬養内閣下政友会が大勝したものの、宇和島市会の方は民政党が多数を占め、また宇和島市長も民政党系の高橋作一郎で、亀太郎ら政友会側は少数野党でした。

3月12日～15日に開かれた昭和7年度予算市会では、亀太郎ら政友会派は、その前からしばしば会合を重ね、また、市会では亀太郎が先頭に立って高橋市長攻撃の質問を行っています。

3月7日「業用ヲナシ、夜、山村氏及ビ政友派市部幹部数名ト丸水ニ会ス」。

3月11日「午前業用ヲナシ、午後一時ヨリ政友派市会議員十一名ト共ニ、蔦屋ニ会合シテ明日ヨリ開カル、市会ノ対策及予算審議ニ協議ヲ重ね、夜ニ入りテ家ニ帰ル」。

3月12日「午前十時ヨリ市役所へ行ク。十一時市会開会。昭和七年度予算市会ニシテ劈頭山崎議長辞任ノコトアリ。選挙ノ結果、議長ニ古城貞氏、副議長ニ参河恂五郎氏当選ス。次デ予算案ノ第一読会ニ入り、議論百出、議場傍聴席沸昂ノ末、午後二時散会トナリ、同志議員ハ蔦屋ニ集合ス」。

3月13日「市会ハ本日休会ナレドモ、政友派議員ハ蔦屋ニ会シテ、予算案審

査ニ一日ヲ費シタリ」。

3月14日「午前十時市会ニ出席シ、予、市財政計画ニ対スル理事者無経倫攻撃ノ質問演説ヲナス。議事ハ午後ニ亘リ傍聴席囂々喧騒ヲ極ム。四時第二読会ノ儘散会。蔦屋ニ会シテ、九時過帰宅ス」。

3月15日「午後九時市役所へ行き、九時半開会ノ市会ニ出席ス。理事者攻撃ニ賑ヒタルガ、民政派多数ノ為メ総テ原案通りニ決定シ、午後八時半諸議案ヲ議了シテ閉会トナル。引続キ丸水ニ於ケル市長主催ノ市議招待宴ニ出席シ、十一時帰宅セリ」。

8月の宇和島市会でも亀太郎は、高橋市長を攻撃しています。「午前十時ヨリ市会ニ出席シ、須賀川附替工事ニ就テ質問シ、市長ト論難スル所アリ」(8月11日)。この記事にある須賀川付け替え工事は、前山村市長が手掛けたもので、7年10月15日に完成しました。

この年の宇和島市政の中心事業は、宇和島港湾改修事業です。宇和島市は、中央から権威の丹羽博士を招いて計画案を立案中でしたが、9月15日に宇和島市港湾委員会を開き、丹羽博士作成の港湾改修計画を了承しています¹⁷⁾この港湾委員会には亀太郎も出席しています。そして、亀太郎は港湾改修には賛成で、9月16日には、市議として、県に補助金を求めるべく陳情に行っています。日記に「市ノ土木費補助港湾計画等ノ用件ニテ上松スルコト、ナリ、午後一時半三好助役、古城市会議長及大超寺奥ノ有志二名ト共ニ自動車ニテ出発ス」(9月16日)、「来松中ノ山村代議士及ビ三好、古城両氏ト共ニ青木土木課長ニ面会シテ、匡救土木費補助割当ニ就テ陳情スル所アリ。十時半ヨリ開会ノ臨時県会ヲ傍聴シ、予ハ少時ニシテ一旦帰宿。午後二時更ニ右ノ三氏ト共ニ土木課長ニ会ヒテ、宇和島港湾及泉線県道等ノ補助要求方ヲ重ネテ談ズ。三時山村氏ト共ニ梅廼家へ行キテ、政友会支部役員及県会議員ノ懇親会ニ加ハリ、四時過帰宿セリ」(9月17日)とあります。

17) 井上雄馬『山村豊次郎伝』252～254頁。

また、亀太郎は、市議として四国循環鉄道建設の陳情活動にも力を入れています。当時国鉄予算線は、昭和2年(1927)4月にようやく松山に、7年12月に伊予上灘までしか開通しておらず、大変遅れていました¹⁸⁾

11月初め、政友会の砂田重政、犬養健らが、鉄道省の官僚と共に宇和島を訪れたとき、亀太郎は鉄道建設について意見を述べています。11月8日の日記に「午前九時ヨリ市役所ニ於ケル砂田前農林次官、犬養、河野兩代議士ト地方人士トノ座談会ニ出席シ、民衆ノ窮状ヲ訴フ。正午蔦屋ニテ午餐会アリ。一行ノ松山へ出発ヲ送りテ後、午後赤松君ノ事務所へ行き、七時名川鉄道次官、坂谷参与官、池田建設局長一行ノ来着ヲ蔦屋ニ迎フ。九時ヨリ市会議事堂ニテ開カル、鉄道問題ノ座談会ニ出席シ、名川氏ヨリ南予国鉄敷設ニ対スル鉄道省最近ノ方針ヲ聴キ、予等ヨリモ質問ヲ重ネタルガ、当局ノ意向ハ八幡浜、卯ノ町迄百〇三号線ノ一部、卯之町ヨリ吉田、宇和島へ新線ヲ建設ニ傾キ、百〇四号線ハ望無キガ如シ」とあります。

ここに出てくる103号線というのは、大洲から八幡浜、卯之町を経て三間村宮野下に出て宇和島市に至る路線(現在の大洲、宇和島線)で、従来憲政会・民政党が主張しているものです。他方、104号線は、大洲から近永(旭村)に至る路線で、従来政友会が主張しているものです¹⁹⁾もともと、政友会主張の104号線の方が技術的に容易であり、こちらが既定の建設計画だったのですが、昭和4年浜口民政党内閣の時、104号線(内陸部)から103号線(海岸部)に切り換えられ、それがその後も続いていて、この時も鉄道省の方針は、103号線となっており、それに対し、亀太郎ら政友会側が異を唱えたようですが、この記事のごとく政友会主張の104号線は絶望であったことがわかります。

その後も、亀太郎らは鉄道誘致運動を行っています。日記に「業用ヲナシ、午後二時市役所ニ於ケル国鉄速成同盟会ノ協議会ニ出席シ、四時帰宅ス」(11月

18) 『愛媛県史概説 上』40頁。

19) 井上雄馬『前掲書』268~286頁。ただし、103号が民政党線、104号が政友会線というのは、単純で正しくなく、政友会のうち清家吉次郎は、出身地もあり、103号線論者であり、他方民政党の村松恒一郎は104号線を支持し、入り組んでいました。

12日)、「午前業用ヲナシ、午後一時ヨリ市役所ニ於ケル鉄道問題協議会ニ出席シ、一〇三号線ニ変更ノ可否ヲ論ズ」(12月7日)等々とあります。

第3章 昭和8・9年の亀太郎

(1) 昭和8年3月の宇和島市会政変と亀太郎

昭和8年(1933)1月、高橋作一郎市長下、念願の宇和島港湾改築計画に対する国庫補助が確定し、港湾修築事業が具体的に軌道に乗ることになりました。しかし、宇和島市会の政争は激しく続いています。

3月13日から昭和8年度の宇和島市の予算案を審議する市会が開かれました。市会の勢力分野は、民政党16、政友会13、中立1です。亀太郎は、野党の政友会の中心メンバーとして、しばしば同派議員と会合を重ねています。「夜、政友派市会議員ノ会合ニ蔦屋ヘ行ク」(3月12日)、「午前十時ヨリ予算市会ニ出席シ、午後同志議員ト蔦屋ニ会ス」(3月13日)、「業用ヲナシ、夜、蔦屋ニ会ス」(3月14日)、「業用ヲナシ、夜、蔦屋ノ会合ニ行ク」(3月15日)等。

そして、亀太郎ら政友会側は、市会での勢力逆転を図るため、民政派の市会議員を切り崩す工作を行っています。3月16日の日記に「市役所ニ行キ、又蔦屋ニ会ス。市会ハ政友派人数揃ハザル間出席セズ。民政派ノミニテハ過半数ニ達セザル為メ、終ニ流会トナリ、両派ノ間ニ一、二議員ノ争奪中ナリ」とあります。そして、2名の民政党の議員、森本兎之助・政石又一を寝返らせることに成功しました。

3月17日、多数派になった政友会派は、民政党の高橋市長の不信任案を提出し、市長辞任に追い込みました。中々激しい政争です。3月17日の日記に「午前九時ヨリ市役所ニ行ク。市会ハ政友派従来十三名ノ所ヘ森本、政石ノ両議員之ト行動ヲ共ニスルコト、ナリタレバ、現議員二十九名ノ過半数ヲ占ムルニ到リ、民政派ハ丸木議員ノ欠席ニヨリテ十三名ニ過ギズ。両派ノ勢力逆転シタルヲ以テ、現市長不信任案提出、通過ノ見込確実トナリ、民政古城議長ヨリ内交渉アリテ、市長投出シノ形勢切迫ス。十一時半僅ニ会議ヲ開キ、諸報告ヲ了リ

シノミニテ、直チニ休憩トナリ、午後形勢急転、市長、助役辞職ノコトニ決定ス。則、三時四十五分市会ヲ再開シ、先ヅ三好助役辞職ノ報告アリ。予、登壇、在職中ノ勞ヲ謝シテ直チニ承認ト決シ、次デ高橋市長登壇、辞表提出ノ挨拶アリ。井上源一君謝意ヲ表シテ、佐々木君ノ留任希望アリシモ、採決ノ結果、十三対十五ノ多数ヲ以テ辞職承認ノコト、決定ス。民政派推薦ノ高橋市長就任以来二ヶ年半ニシテ倒レ、市政再ビ政友派ノ手ニ帰セントスル情勢トナリシモ、市会最終ニ議長ヨリ政石議員辞職ノ報告アリ。之ニハ疑義ヲ存スルモ、両派ノ数ニ懸隔ナキ為メ、今後尚紛糾ヲ続クベキヤニ思ハル。四時五分閉会ノ後、予等ハ鳶屋ニ会シテ対策ヲ協議シ、臨時市長代理決定ニ就キ県ト交渉ノ為メ、横田市庶務課長ヲ直チニ上松セシム」とあります。この日記は当事者でないと知り得ない興味深い、生々しい政界の裏話となっています。

このようにして、8年3月17日、政友会が宇和島市政を奪還しました。高橋市長と三好助役の辞職により、愛媛県は市長職務管掌として、県の地方事務官武智真一を任命し、武智が2ヵ月程市政を担当しています。

3月政変のため、予算が通っていませんので、3月21日、予算だけは通すことを政友・民政両派が談合の上決めました。「午後三時過ヨリ市役所ニ於テ政友側ノ井上、牧野、久都及予ノ四人、民政側ノ古城、参河、菊池ノ三氏ト武智事務管掌、横田庶務課長ヲ加ヘタル一同ニテ会見。市政当面ノ打開策ニ就テ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒタル結果、予算案丈ケハ不取敢原案ノ儘通過セシムルコトニ協定成レリ。後、築地あづまヘ行キテ晚餐ヲ共ニシ、九時頃帰宅ス」(3月21日)。そして、3月23日に市会が開かれ、予算が通過し、また、市長詮衡委員会の設置を両派から4名ずつ選出しています。「午前十時ヨリ市会ニ出席ス。十一時開会。予算諸案ヲ附議シ、予、劈頭登壇シテ、市政非常時対策トシテ、協調和衷ノ精神ニ基キ、行政事務ノ停顿ヲ避クル為メ、無修正賛成ノ趣旨ヲ陳べ、他二、三氏ノ演説アリテ、全部原案可決トナル。尚午後ニ亘リテ開議ノ上、市長詮衡委員モ此趣旨ニヨリ両派ヨリ同数ヲ出シテ、八名ヲ選定シ、三時過終了閉会ス。六時ヨリ武智職務管掌主催ノ市会議員慰労会ニ丸水ニ出席シタリ」

(3月23日)。なお、市長詮衡委員には、政友会派側が井上、久都、牧野、森本の4名、民政党派側が古城、参川、佐々木、菊地の4名が選ばれています。

市会を奪還した亀太郎ら政友会派は、市長候補の相談を行い、亀太郎はまたも山村豊次郎を推薦しますが、多数は井上源一²⁰⁾を推しています。日記に「夜、政友派市会議員蔦屋ニ会ス。市長詮衡ニ就テハ、予ト牧野君ハ第一山村、第二井上説、其他ハ多ク井上源一君推薦ノ意向ニテ未ダ纏ルニ到ラザリキ」(3月25日)とあります。山村は衆議院議員であり、再度登板という意味は全くなく、むしろ井上を推薦しました。「在京山村氏へ市長候補ノ意向ヲ電照会シタル結果、断然其意志無シ、井上君適當ナラレトノ返電ニ接ス」(3月26日)。その結果、政友会は市長候補に、井上源一を決めました。「蔦屋ニ於ケル政友派市会議員ノ協議会ニモ出席ス。議会ヨリ帰レル山村氏モ会シテ、市長問題ハ井上君ヲ推スコトニ決定セリ」(4月1日)。

政友会側は民政党側に井上源一で働きかけましたが、当然不調に終わり、又も市会の多数派工作を進め、民政派の岡島盛夫を寝返らせ、何とか過半数を占めることになりました。「午後一時ヨリ蔦屋ニ会ス。両派協調不可能トナリ、政友派ハ岡島君ヲ得タル十五名ヲ以テ単独ニ井上君ヲ推薦スルコトニ方針ヲ決定シタリ」(4月8日)。

市長詮衡委員会が、4月17日に開催されていますが、可否同数ですので、何も決まりません²¹⁾

5月13日、市長選びの市会が開かれました。市会では政友会の推す井上源一に対し、民政派が反対し、民政派市議全員退場しました。そこで、政友会派のみで市長選挙を行い、井上15票、高橋作一郎1票で、井上が第5代市長に選出されました²²⁾ 日記にも「午前十時市会ニ出席ス。井上源一君名誉職市長ニ当選

20) 井上源一は、明治9年6月、北宇和郡蔦瀨村に生まれ、36年明治法律学校卒業し、40年弁護士開業、大正3年に宇和島町会議員に当選し、再選、また10年市会議員となり、引き続き再選され、政友会派の中心人物であった。

21) 高島文庫「市長詮衡委員会経過報告」(昭和8年4月23日)。

22) 『海南新聞』昭和8年5月14日。

セリ。閉会后蔦屋ニ於テ同志議員ト昼食ヲ共ニシ、午後四時職務管掌武智真一氏ノ帰松出発ヲ見送りテ帰宅ス」(5月13日)とあります。そして、市の助役には、柏木己一郎が選出されています。

そして、市会の議長についてですが、7月4日の市会で、民政党の議長古城貞が井上市長の下では議長の職に止まることは出来ないとして辞任し、元民政党で政友会派に寝返った森本兎之助が政友会の支持で選出されています(森本15票、無効10票)。やむ得ない論功報奨人事です²³⁾ 日記に「夜、政友派市会議員ト蔦屋ニ会シ、協議ノ結果、井上市長就任前ノ内約已ムヲ得ザルモノアリテ議長ニ森本君ヲ擬スルコトニ決定ス」(7月3日)、「午前九時ヨリ市会ニ出席シ、議長ニ森本兎之助君当選シテ、正午過閉会ス」(7月4日)とあります。これまた、政界の裏話に属する興味深い事実です。なお、副議長には政友会の久都直太郎が選ばれています。

市長に当選した井上市長は、7月14日、宇和島港湾改修事業について、浚渫及び埋め立ては市の直営とするが、護岸工事は請負工事とし、入札を取り、大林組、清水組、大倉組、銭高組の4名を指名しました²⁴⁾

しかし、この指名入札は市政の大問題・政争の道具となりました。すなわち、民政党側は、①市は秘密にするべき指名業者の名前を公表し、業者による談合入札が行われた、②市が地元を無視して県外業者のみを指名したのは時局匡救事業の精神に反する、として井上市長攻撃を行いました²⁵⁾

しかし、井上市長は、市長の権限をもって独裁専断的に清水組(大阪市)と随意契約を結びました(7万4,500円)。それに対し、9月の市会で野党の民政党が市長を激しく攻撃し、市会は紛糾を重ねました。9月16日の市会で井上市長は激しく攻撃され、市会は流会となっています。日記にも「九時市会ニ出席ス。港湾工事随意契約問題ニテ、井上市長攻撃起リ、紛擾ヲ極ム」(9月16日)

23) 『海南新聞』昭和8年7月5日。

24) 『海南新聞』昭和8年7月16日。

25) 『海南新聞』昭和8年9月2日。

とあります。9月17日には民政党の主催による井上市長弾劾演説会が、市公会堂にて開かれ、1,500名ほどが参加し、反対運動が盛り上がっています。このため、政友会内部でも井上市長に反対するものも出て、党内不一致となり、9月18日に再開された市会において、民政党の議員12名は全員出席しましたが、政友会派の議員は一人も出席せず、井上市長に対し、喧騒、怒号を極め、また流会となっています²⁶⁾ 日記にも「午前市会ニ行キタルモ、政友派歩調揃ハズ流会トナル」(9月18日)とあります。

そこで、井上源一市長は一時辞意を洩らすなど動揺しています。また、愛媛県も憂慮し調停に入りましたが、それも不調に終わり²⁷⁾ 市会は混迷を続けます。日記に「午後二時丸水ニ於テ政友派市議ノ協議会ヲ開キ、市会対策ヲ練ル。井上市長一旦辞意ヲ洩シタルガ、夜ニ入りテ来宇中ナル県知事及ビ土木課長ヨリ、両派居中調停ノ提議アリテ、懸案ノ儘九時散会ス」(9月21日)、「十時ヨリ市役所ヘ行キ、市長等ト協議シタルガ、県ノ調停案ハ民政派ノ容ル、所トナラズ。知事、課長モ松山ヘ去リ、全ク不調ニ終レル為メ、再ビ混沌状態トナル」(9月22日)。

山村代議士も帰宇し、政友会側は協議を重ねました。そして、結局、民政党との協議を打ち切り、随意契約で強行することにしました。「二時市会議員ト蔦屋ニ会シ、本日東京ヨリ帰宇ノ山村代議士専ラ同志ノ間ヲ斡旋シタル結果、民政派トノ交渉ヲ打切りテ政友会独自ノ行動ニ出デ、暫ク現状ノ儘結束ヲ固ムルコト、ナル」(9月24日)。

9月25日に井上市長は政友会の幹部を集め、了解を求め、また清水組と工事契約書に正式調印しました²⁸⁾

それに対し、9月28日の市会で、民政党側が井上市長不信任案を提出し、市

26) 『海南新聞』昭和8年9月19日。

27) 民政派側では、佐々木、古城両氏は県の調停を受け入れましたが、他のメンバーが随意契約そのものを絶対認めないとして、不調に終わっています(『伊予新報』昭和8年9月25、26日)。

28) 『海南新聞』昭和8年9月26日。

会は喧噪を極めました²⁹⁾ それに対し、亀太郎が反論し、政友会多数を背景に不信任案を否決しました。日記に「朝、牧野君ト共ニ森本君ヲ訪ヒ、交渉ノ上、九時ヨリ共ニ市会ニ出席ス。民政派ヨリ随意契約ニ対スル市長不信任案出デ、議場喧噪ヲ極メ、午後再召集。予、与党ヲ代表シテ之ヲ駁シ、不信任案否決トナル。六時漸ク終了」(9月28日)とあります。

以上、宇和島市会での政変、激しい政争ぶり、ならびに亀太郎がその先頭にたっていることが日記から分かります。

井上市長は何とか政治危機を乗り切り、10月17日、総工費66万円の宇和島港湾改修工事の起工式を開催しています³⁰⁾

(2) 宇和島市会における亀太郎

亀太郎ら政友会派は、四国循環の国鉄線建設について、引き続き運動しています。昭和8年5月初め、貴族院議員の前田利定や鉄道省の幹部が国鉄線視察に来宇したときのことで、従来の104号線の復活の働きかけを行っています。日記に「業用ヲナシ、井谷正命氏ノ来訪ニ接ス。午後六時ヨリ市役所ニ於ケル貴族院議員子爵前田利定氏外数子爵、池田鉄道建設局長等国鉄線視察ノ一行歓迎会ニ出席シ、九時帰宅ス」(5月4日)、「午前七時蔦屋へ行キテ、山村氏ノ紹介ニヨリ、井谷正命、桂作蔵ノ諸氏ト共ニ前田子爵ニ面会シテ、国鉄百四号線復活ニ就テ陳情ス。八時右一行ノ出発ヲ送リテ、山村、久留島、井谷、久野、桂ノ諸氏ト共ニ自動車ヲ連ネテ、吉野生線ヲ高知県迄随行シ、高岡郡窪川ニ到リテ、正午過高知市行ノ右一行ト別ル。後、同地方有志ト会見シテ、予土国鉄期成同盟会組織ノコトヲ談ジ、午後二時半窪川ヲ辞シテ帰途ニ就ク。予等ハ山村氏等九名ナリ。途中川崎ニ少憩シテ、六時過宇和島ニ帰着セリ」(5月5日)とあります。

8月1日に私鉄の宇和島鉄道が、山村代議士の尽力により、国により買収さ

29) 『海南新聞』昭和8年9月29日。

30) 井上雄馬『前掲書』256頁。

れ、国鉄に移管されました³¹⁾

これも弾みになり、ますます国鉄線建設運動を行っています。8月7日には宇和島・須崎間の鉄道線建設運動に取り組んでいます。「国鉄吉野須崎間速成運動協議ノ為メ、山村代議士及市議員連十余名ト共ニ、午前八時発自動車ニテ川崎ニ到リ、同地村役場ニ於テ十一時高知県沿道各村長有志ト会見ノ上、運動方法ニ就テ協議ヲ重ヌル所アリ。了ツテ午後二時川崎ヲ発シ、三時半帰着ス」(8月7日)。

そして、9月には東京にも鉄道の陳情に行っています。「午前十時一寸市会ニモ出席シタル上、正午ノ宇和島自動車ニテ出発、東京行ノ途ニ上ル。国鉄吉野須崎線促進陳情団体ノ市委員トシテ、予及ビ市議員尾下鶴正君選バレタル為ナリ」(9月6日)、「朝七時十分東京駅着、呉服橋龍名館ニ入ル。予テノ打合ニヨリ、高知県ヨリ来京ノ幡多郡十川、江川崎、大正、西上山、高岡郡窪川、須崎等各町村長十名ト同館ニ会合シ、高知県選出ノ在京代議士河渕氏ノ来館ヲ得テ打合ノ結果、同氏ノ案内ニテ、十一時鉄道省ヲ訪フ。最初池田建設局長ニ面会、次デ久保田事務次官、名川政務次官ニ夫々面会ノ上、予、一行ヲ代表シテ陳情ノ趣旨ヲ述べ、予土連接国鉄急設ノ切望ヲ説明シタルガ、孰レモ相成ルベク希望ニ副フ様考慮スベシトノ答ヘアリ。午後一時ヨリ更ニ永田町鉄道大臣官邸ニ鉄相三土忠造氏ヲ訪フ。待ツコト少時ニシテ、奥ノ応接室ニ招カレ、三土鉄相及ビ米田秘書官ト会見。此处ニテモ、予、主トシテ希望ヲ陳述シ、地方民国鉄開通□望ノ事情ト宇和島鉄道買収後ノ好成績実況ヲ告ゲタルガ、三土氏モ予定線ノ如何ニ拘ラズ、此線路ハ必要ナルヲ以テ敷設ノ意向ナル旨言明サレタリ。予ハ更ニ宇和島市ノ希望トシテ、現在ノ駅ヨリ港湾改修ノ埠頭迄臨港引込線敷設ノ件ヲ懇請シ、先般ノ市会ニテ決議シタル陳情書ヲ直接大臣へ提出シ置

31) 宇和島鉄道は明治44年1月、北宇和郡好藤村の今西幹一郎、河野虎尾らが中心となり創立し、大正3年10月に宇和島-近永(旭村)間が、同12年12月に近永-吉野生(吉野生村)間が開通した。社長は、昭和5年堀部彦次郎死去のあと、山村豊次郎が引き継ぎ、山村の尽力により、昭和8年8月1日、国鉄に買収され、国鉄宇和島線となった(『山村豊次郎伝』264~268頁、393~394頁)。

キタリ。二時前退出。一同日比谷公園ノ食堂ニテ昼食ヲ共ニシ、要路トノ会見ノ迅速ニ運ビ、形勢ノ有望ナルヲ祝セリ」(9月8日)。

昭和9年(1934)も井上源一が市長を続け、9月に山村市長時代からの懸案の九島村の宇和島市への合併を行い(9月1日)、また、伊達家から日振新田を買収し、埋め立て、近江帆布工場の誘致も行っています。

9年10月10日、井上政友会市長時代に第4回宇和島市会議員の改選が行われました。定員36名に対し、53名が立候補し、激戦でした。政友派は23名、民政派も23名、そして中立が7名でした。亀太郎も立候補しました(亀太郎の選挙の事務長は西山正男が担当)。政友派は、牧野虎恵幹事長を中心に、山村代議士、赤松県議、池下常五郎らが参謀となり選挙活動を取り仕切っていました。他方、民政派は、尾下鶴正幹事長、高橋作一郎前市長を中心に、古城、佐々木らが中心になり、選挙活動を取り仕切っていました³²⁾

結果は、政友会派が18、民政党派が16、中立2(うち井上雄馬は政友会系中立)で、僅差ですが、政友会側が勝利しました。当選議員中上位者は、今度は政友会が多く占めています(上位10名中、政友会が8名)。亀太郎は前回(昭和5年)は苦戦しましたが、今回は3位の高位当選です。また、前回4位で当選し、民政党から政友会派に寝返り、議長にもなった森本兎之助(中立)はわずか96票しかなく、落選しています。寝返った議員の末路を示しているようです。

この市会議員選挙は、買収、饗応等選挙違反事件が激しく、300名ほどの選挙違反者が出ています³³⁾なお、9年の日記は、2月24日で中断しており、残念ながら、選挙の具体的事情等は不明です。

9年10月10日の市会議員選挙の順位、得票数、党派は次のようになっています。牧野虎恵(256, 政現)、溝口正文(248, 民現)、高島亀太郎(226, 政現)、久都直太郎(208, 政現)、長山芳介(206, 政現)、岡田一(206, 政現)、岡島

32) 『伊予新報』昭和9年10月4, 10日。

33) 『伊予新報』昭和9年10月10日。

盛夫 (200, 政現), 清家將美 (198, 政新), 久野修造 (191, 政現), 中川鹿太郎 (190, 民現), 薬師神岩太郎 (188, 政元), 中田春太郎 (188, 民新), 村山半蔵 (187, 政現), 古城貞 (186, 民現), 尾下鶴正 (181, 民現), 藤田好一 (180, 民新), 河野松衛 (178, 民新), 鎌江孫一郎 (176, 民新), 川野治亨 (176, 政現), 赤松義光 (173, 民新), 中里重次郎 (172, 政元), 佐伯定吉 (172, 民新), 参川恂五郎 (169, 民現), 井上雄馬 (164, 中新), 増田伝市 (163, 政新), 常葉正成 (160, 政新), 酒井千代松 (160, 中新), 菊池伝次郎 (158, 民現), 佐々木饒 (155, 民現), 岩井信福 (153, 政新), 津村寿夫 (148, 民現), 久留島豊 (144, 政現), 水野素直 (143, 民新), 西蔭喜惣八 (141, 政新), 大野喜十治 (141, 政新), 藤本藤平 (139, 民現)。なお, 落選者は, 大宮隆好 (次点, 137, 民新), 宇都宮潔 (133, 政新), 国松福祿 (127, 民元), 吉良分乙 (121, 民新), 久松操 (104, 中立), 森本兎之助 (96, 中立) 等々です³⁴⁾

この市会議員選挙で政友会の勝利をうけて, 市長は引き続き, 井上源一が担当しています。そして, 10月19日に開かれた新市会で, 亀太郎は市会の議長に選任されています。また, 副議長には, これまた政友会の清家將美が選任されています³⁵⁾

34) 『伊予新報』昭和9年10月12, 13日, 『海南新聞』昭和9年10月12日。高島文庫「宇和島市会議員選挙得点票」(昭和9年10月10日)。

35) 『宇和島市誌』445～446頁。